

社說

西伯利鐵道と云へる世人は直ちに百萬のコッサツク兵が艦を並べて東に下るを想像するのみにして其東洋貿易に及ぼす影響を論ずるものに至りては塞々として開えざるは我諸の甚だ遺憾に思ふ所なり凡そ如何なる國民と雖も已に衣食住の三者を必要とする以上は決して經濟上の法則と等閑にせずして一舉一動莫々の中に平和神の命令に従はざるを得ず十字軍の成功せざりしは其原因は經濟上の法則に背くが爲めに外ならず豊大間征明の旨を遂げざりしも内國の人員と資力とに不足を感じたるか爲のみ或は羅馬帝國の滅亡すらも金銀本位の處置に於て誤謬わざりしが爲めなりと云ふものあり如何なる國民と雖も武力一偏以て能く自から立つ者あるを開かず必ず經濟上の原則に支配せらるゝを常とする此言果して眞實ならんには我國民も亦決して西伯利鐵道を片側より觀察して他の武力のみを見るみとなく更に眼を轉じて其經濟上の趨勢に重きを置き平和交通の新利器を利用して東西貿易の道を開き自利利他相互に天與の幸福に沿するの法を講ずるみと策の得たるものなれど長崎との間は十七日にして旅行し得べしと云ふ然るに現今の交通法を見るに倫敦日本間の直航は三十八日を要し英國より加奈陀に渡り太平洋を越えて日本に至るには二十八日を費す可し兩者を比較して十一日乃至十五日の相違なり或は英國の商賈も西伯利鐵道を以て英國商權の一大勁敵と信するが故に今や加奈陀鐵道を増加改良し倫敦よりクエベック・ハリファック・セントジョン等に至る交通を頻繁にせんとし一方には急航汽船を増加して西伯利鐵道と競争せんとする最中なれば日英間の航海日數は多少減ずるみとある可しと雖も其最短日數に達するも猶ほ二十三日を要するを免れされば(タエベックとリバーピールの間五日半、ヴァンクウバア、クエベック間四日、横濱・ファンクウバア等二百廿六マルク餘下等九十マルク餘内外なりと云へば)賃銀の點に於ても到底、鐵道の廉なるに如かざるなり唯此鐵道に不便利なるは沿道の山水宿禰、單調にして變化なきと民俗野蠻にして教風景なるとに在りと雖も利のかる所人乃ち之に歸するの習なれば西伯利鐵道は獨り露國の武力を東方に集むるの用たるのみならず亦世界の商業を北方に誇る一大利器たる可きや疑て容れざるなり故に我輩は我國の商賈が益す此事勢を利用して商業上に於ける鐵道の便利を増加せしむ浦聖斯德をして單に軍港たるに止まらず一大商港たらしめ一旦兵禍あらば露國及び北歐が之がために聚むる所の損害は實に堪え可らざるものとならしめんふとを欲するものなり

便われやも之と同時に一旦事のあらは防護せざる可らず
る要地多きがため國力を徒費重んならしむるの恐ある
に引き替へて露國は貿易上の勢力少なき代りには何處
を攻撃せらるゝも死命を割せらるゝの憂なく何時も他
國は頭を出し手を伸ばして攻め来るに露國のみは脅を
以て待遇の風ありて浦鹽斯處の如きも萬一事わりて
他國より攻撃するも今日の僅にては唯是れ絶東の一塞
國は頭を出し手を伸ばして攻め来るに露國のみは脅を
占領は以て大なる痛苦を與ふべくして運輸の中止は以
て貿易を中止せしむれば露國の商業が益す降昌を加へ
と雖も前節に云へるが如く彼の新鐵道成績の上に貿易
運輸發達して幾千萬の富を蓄ふるの地とならば其地の
邑、全く之を破壊したりとて細針以て大象の鬚を突
くが如くならんのみ殆んと必然なりと云ふ可し故に我輩
は此鐵道の速に發達して露國の商業が益す降昌を加へ
於ては露國の武威を増すのみなれども一方に於ては亦
何に平氣にて済ますかと云ふと我商人も此
恰も英國が商業の廣大によりて却て自から制せらる
が如くなるの日速に來らんふとを望み且つ我商人も此
勢を助成して新に商利を利せんふとを勧告するものな
り

○臨時内閣會議 昨日午前十時より永田町總理大臣の官邸に於て伊藤總理、西郷海軍、西園寺文部、板垣内務、渡邊大藏、芳川司法、高鳴拓殖務、榎本農商務、白根信(大山、陸奥の二大臣欠席)の各大臣及び黒田権密院議長等參集して臨時内閣會議を開き極めて秘密に
何事をか審議する所ありたる後正午頃散會したり當日の議題は素より知るべく限りにわらされども多分今度
總理及び海軍大臣の臺灣巡視に付其出發に先ちて種々
打合を要する事もあり且つ別項記載の如く臺灣總督更
任の件に就ても協議する所ありしならんと云ふ
○桂第三師團長の陸奥伯訪問 伊藤總理は昨日臨
時閣議を了り久我東京及び内海大阪府知事等の來客
團長は昨日臨時閣議の際總理大臣の官邸を訪問せり
即に訪問せり多分臨時閣議の結果を齎して同大臣と協
議する爲めならんと云ふ

○天理教會所設置の不認可 長野縣松本町にて天理教會深川支教會信陽出張所の設置を同縣北佐久郡小諸町にて同教説教所二箇所の設置を執れり出願したるに其筋にては聞居け難じとて其願書を却下し
るよし

押嵐の乾兒等く牢壙しの企謀ありとは知る由もなけれど、二三日以來、何となく不穏の動靜のあり、と間ノ川の探偵先づ注進の功を擢で、役所の狼狽一方ならず、扱は一揆の二の舞油断して、役所を焼かるとな、牢を壊さるとな、今夜の中に押嵐を服罪させて、乾兒をもの鼻を明せよ、と松明把つて、押嵐を牢より引出しひ。

押 嵐 あそば 第三十七回